

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）

（分担）研究報告書

ブロック拠点病院のない自治体における中核拠点病院の機能評価と体制整備のための研究

課題番号：H30-エイズ-一般-003

【分担研究5】在宅介護職員の実施研修

研究分担者：小野恵子

（愛媛大学医学部附属病院 総合診療サポートセンター・ソーシャルワーカー）

研究要旨：四国のようにブロック拠点病院が近辺になく、県内の個々のエイズ拠点病院が十分に機能していない、いわゆる地方の比較的医療過疎である地区に、本研究によってHIV診療の充実や均てん化が促されていくことが期待されている。30年度の研究成果として、3回実施したが、HIV患者の介護に直接当たってもらうことが差し迫った事情であることを踏まえ、県内の在宅介護職の看護師に各々1週間ずつ研修会として、当院のHIV患者の実施研修（外来、病棟）と講義・討議を行った。具体的な研修により、HIV感染症に関する啓蒙とともにHIV患者の在宅医療の推進にも繋がり、極めて意義深い研究活動と考えている。

研究分担者

高田清式・愛媛大学医学部附属病院・教授
末盛浩一郎（愛媛大学医学系研究科・特任講師）

井門敬子・愛媛大学医学部附属病院・副薬剤部長

若松綾・愛媛大学医学部附属病院・看護師

A. 研究目的

ブロック拠点病院が近辺にない愛媛県において当院は、エイズ地域中核拠点病院に指定され、累計170名以上の患者を治療している。四国地区は近年HIV・エイズ患者の増加が著しく、大半の患者が当院に受診している。かつ四国地区は、高齢化率が29%前後の地方であり、都市に比べ高齢者のHIV・エイズ患者が多く、HIV感染および合併症が進行し日常生活に差し障りが著

しく在宅の長期療養が必要な例も少なくない。当院は急性期病院の立場であり、自宅で自立した生活が困難な長期療養患者の対応については、HIVに対する不安や感染リスクが問題になり、受け入れに難渋しているのが実情である。この実情のもと、具体的な研修を行い、HIV感染症に関する啓蒙とともにHIV患者の在宅医療の推進にも繋げて行くことを目的とした、極めて意義深い研究活動と考えている。

また、アンケート調査等を通じ地方のHIV診療に関する連携の実態を把握し問題点を検討する。

B. 研究方法

HIV患者の介護に直接当たってもらうことが差し迫った事情であることを踏まえ、県内の在宅介護職の看護師に各々1週間ずつ研修会として、当院のHIV患者の実施研

修（外来、病棟）と講義・討議を年に数回行った。

（倫理面への配慮）

患者および関係者に対する人権の保護に配慮して行い、調査に協力できない場合も不利益にならないようにする。

C. 研究結果

30年度には3回実施した。HIV患者の介護に直接当たってもらうことが差し迫った事情であることを踏まえ、県内の在宅介護職の看護師に各々1週間ずつ研修会として、当院のHIV患者の実施研修（外来、病棟）と講義・討議を行った（図）。

日時	1日目(1/29月)	2日目(1/29火)	3日目(1/30水)	4日目(1/31木)	5日目(2/1金)
9:00	オリエンテーション (山崎院長)				
9:30	DVD「HIV/AIDSの医学的知識」	TNSC見学/ 医療ソーシャルワーカー講座: 看護、地域サービスの連携 (小野MSW) 臨床研修センター	標準予防策 1-1研修	外来見学 (高田医師、武田看護師)	看護実践-検査-相談 在宅医療 武田看護師、若木看護師 臨床研修センター
10:00	外来見学 (高田医師、武田看護師)	DVD「地域との連携-MSW」	1-1研修見学 (空4看護師)		
10:30			HAND「HIV感染症知得書」 (高田医師)		
11:00					
11:30					
12:00	昼休憩				
12:30					
13:00	外来見学 (高田医師、武田看護師)	第一内科病棟自診 (末廣医師、山崎看護師) 1-1研修 DVD「HIV陽性者の服薬と処方」	薬剤師講義 (東松薬剤師、木村薬剤師、 井門薬剤師) 薬剤部	歯科診療-口腔ケア (松本歯科衛生士) 臨床研修センター	総括 (末廣医師) 臨床研修センター
13:30				心臓士講義 (中塚心臓士) 臨床研修センター	
14:00					
14:30					
15:00	医師講義「HIV/AIDSについて」 (末廣医師)臨床研修センター	医師講義「重症者の現状と在宅 医療、性感染症」(高田医師)			
15:30	休憩		一日のまとめ	一日のまとめ	
16:00					
16:30	HIVカンファレンス 1-1研修	一日のまとめ			

図 在宅介護研修 1週間スケジュール

計6名の研修を行ったが、アンケートを行ったところ研修の全体的には全員満足度は高かった。

具体的意見として、外来見学では、「普通に外来に来られており、直接話しをさせてもらったことでまだ自分の中にあった偏見に気付くことができた。可能であれば個別面談を拒否される方のイメージなど（理

由）を教えていただきたいと思います。又、生活の乱れた方の対応を見学してみたかった。」などの意見があった。

病棟実習では、「HIV患者に使用した衛生材料の取り扱いについて具体的に汚染処理室などの見学もさせていただき勉強になりました。」などの意見があった。

さらに講義、カンファレンスも含め全体的な意見として、「多職種の見学も含めて全体像が見られた。全国、中四国などでの研修や動向が理解出来た。他職種で同じ事を共有することが重要なため実際参加することができ様子や雰囲気を感じることができた。チームの雰囲気関係性が良くチーム皆が一つの目標に向かって頑張っている気持ちが良く伝わり私自身も背中を押してもらったように思う。チームとしてそれぞれの職種としての関わりがあり外来～病棟までトータルで関わりをしてくれてわかりやすかったです。現状を知ることができて良かった。一人一人の患者の状態、状況の共有、他職種のそれぞれの意見や治療方針なども話し合わせていただいたのも良い経験になった。」という前向きな意見であった。

D. 考察

30年度の研究成果として、3回実施したが（計6名受け入れ）、HIV患者の介護に直接当たってもらうことが差し迫った事情であることを踏まえ、県内の在宅介護職の看護師に各々1週間ずつ研修会として、当院のHIV患者の実施研修（外来、病棟）と講義・討議を行うことができた。具体的な研修により、HIV感染症に関する啓蒙とともにHIV患者の在宅医療への推進にも繋がり、極めて意義深い研究活動と考えてい

る。アンケートの結果、かなり前向きで好意的な意見も多く見受けられ、HIV 感染症に対する偏見や誤解が解け、さらに最新の知識が得られる良い機会と考えられた。さらに近々具体的な患者の在宅医療への受け入れが円滑に進むことを期待している。

E. 結論

在宅介護職の看護師に対し、実施研修を3回実施した。HIV 患者の介護に直接当たってもらうことが差し迫った事情であることを踏まえ、県内の在宅介護職の看護師に各々1週間ずつ研修会として、当院のHIV 患者の実施研修（外来、病棟）と講義・討議を行った。具体的な研修により、HIV 感染症に関する啓蒙とともに HIV 患者の在宅医療への推進にも繋がり、極めて意義深い研究活動と考えている。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 日本エイズ学会誌、20(2):155 -159, 2018、石川朋子、末盛浩一郎、小野恵子、滝本麻衣、若松綾、中尾綾、乗松真大、木村博史、井門敬子、高田清式、安川正貴：愛媛県におけるエイズ診療地域連携を目指した研修会の評価—アンケート調査による研修会有用性の検討とMSWの役割—。

2. J Infect Chemotherapy 24(12): 1024-1025, 2018、Watanabe H, Mizuno Y, Kikuchi H, Miyagi K, Takada K, Mishima N, Okoshi H: An attempt to support by the Japanese society of travel and health for increasing travel clinics.

2. 学会発表

1. 高田清式、末盛浩一郎、山之内純、西川典子、辻井智明、井門敬子、木村博史、乗松真大、武田玲子、若松綾、小野恵子、中尾綾、HIV 関連神経認知障害 (HAND) における髄液中のネオプテリン量および HIV-RNA 量と ART 後の変化、第32回日本エイズ学会・学術総会、大阪、2018年12月
2. 末盛浩一郎、小野恵子、若松綾、中尾綾、武田玲子、芝田佳香、宮崎雅美、乗松真大、木村博史、田中景子、山岡多恵、井門敬子、竹中克斗、高田清式、愛媛県の各医療機関における HIV/ AIDS 研修会後のアンケート調査を介した意識調査の比較、第32回日本エイズ学会・学術総会、大阪、2018年12月
3. 中尾綾、末盛浩一郎、山之内純、竹中克斗、高田清式、HIV 陽性者に対するアイオワ・ギャング リング課題—Net Score で評価して—、第32回日本エイズ学会・学術総会、大阪、2018年12月
4. 岡崎玲子、蜂谷敦子、佐藤かおり、豊嶋崇徳、佐々木悟、伊藤俊広、林田庸総、岡慎一、瀧永博之、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、椎野禎一郎、須藤弘二、加藤真吾、谷口俊文、猪狩英俊、寒川整、加藤英明、石ヶ坪良明、中島秀明、吉野友祐、太田康男、茂呂 寛、渡邊珠代、松田昌和、重見 麗、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊大、小島洋子、森治代、藤井輝久、高田清式、南留美、山本政弘、松下修三、健山正男、藤田次郎、杉浦互、吉村和久、菊地正、国内新規 HIV/AIDS 診断症例における 薬剤耐性

HIV-1 の動向、第 32 回日本エイズ学会・
学術総会、大阪、2018 年 12 月

5. 木内英、谷口俊文、猪狩英俊、高田清式、高野操、菊池嘉、岡慎一、日本における HIV 関連神経認知機能障害 (HAND) の有病率および関連因子 (J-HAND 研究報告)、第 92 回日本感染症学会学術講演会、岡山、2018 年 5 月

6. 末盛浩一郎、村上忍、松本卓也、宮本仁志、長谷川均、安川正貴、フルコナゾール耐性播種性クリプトコッカス症にポリコナゾールが奏功した 1 例、第 92 回日本感染症学会学術講演会、岡山、2018 年 5 月

H. 知的財産権の登録状況 (予定を含む)

該当なし